

# すららアクティブ・ラーニング

## レポート作成の手引き

下記は、レポートを書く上での一般的な構成案です。

必ずしもこの順番で書かなければいけないというわけではありませんが、

下記の構成に沿って書くことで、レポートに必要な要素を満たすことができます。

次のページから各項目の記載例やポイントを確認していきましょう。

レポートの構成案：

0. レポートタイトル／チーム名／メンバー名

1. 背景（課題の設定）

2. 調査・分析

3. 解決方法

4. 提案

5. まとめ

6. 出典・参考文献

# レポートタイトル



自分たちのアイデアにタイトルを付けましょう。  
分かりやすい言葉や興味きょうみを引く言葉を使って、タイトルを伝えよう！

チーム名:

氏名:

氏名:

氏名:



いっしょいっしょにレポートを作成したメンバーの氏名とチーム名を記載きさいしよう！  
メンバーの氏名は、ニックネームでもOKです！

# 1. 背景(課題の設定)

過去の優秀レポートの例 (一部抜粋)

(第8回、テーマ：外国にルーツをもつ人が、あなたの住んでいる街でよりよく生きるためにできることを提案するレポートを作成しよう。)

【外国にルーツを持つ人たちがよりよく生きるためにはどうしたらよいか】ということ考えたとき、まず初めに浮かんだことが「外国人は日本で何に困っているのだろうか。」ということでした。調べていくうちに、お金のことや、言葉のことについての課題が多くみられました。しかし、それと同時に山梨県が行った在留外国人へのアンケートで「〇〇について困っていることはありますか。」という質問が多数ありました。そして、その質問の回答では、「困っていることが特にない」と答える人がたくさんいることがわかりました。国籍別では半数以上いるところもありました。この回答の結果から、実は今日本にいる外国人で困っていることよりも住みやすいな、と思っていることをよりよくすればいいのではないかという考えに変わりました。そこで私たちは困っていることではなく、いま外国人が満足していることを調べ、それをもとに外国人と私たち日本人がよりよく共生していくには何ができるのか。について考えました。



まずは、イベントのテーマにあった課題をチームで設定しましょう。

そして、チーム内でどのような問題を発見し、解決する提案までに至ったか詳しく記載しましょう。

なぜそのテーマにする必要があったのか、どのような問題を解決しようとしているのかを明確にすることが大切です。

この課題設定が明確でないと、次の「調査・分析」で何を調べればよいかわからなくなったり、せっかくの調査が無駄になってしまったりすることがあります。

チームでしっかりと議論して課題を設定しましょう。

## 2. 調査・分析

過去の優秀レポートの例（一部抜粋）

（第8回、テーマ：外国にルーツをもつ人が、あなたの住んでいる街でよりよく生きるためにできることを提案するレポートを作成しよう。）

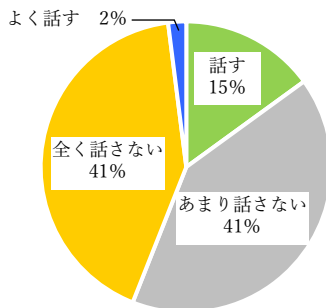
【日本人学生と留学生の関わりについて】

「日常生活において、外国人・外国人留学生と話す機会がありますか」という問いに、日本人学生は「あまり話さない」「全く話さない」という意見が8割を超えています(グラフ1)。一方、外国人留学生は、日常生活において日本人学生と「よく話す」「話す」という意見が9割を超えています(グラフ2)。

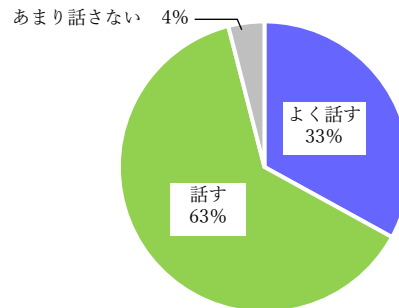
日本人学生と留学生でまったく逆の結果となりました。この結果から、留学生が一部の限られた日本人学生としか話せていないということが推測されます。もしも普段話している日本人学生が居ない場面だったら、外国人留学生のみなさんは悩みを十分に相談することができないだけでなく、普段の何気ない会話をするのも難しいのではないのでしょうか。

大学では、日本人学生も留学生も、お互いが近くにいるし、日本語も英語も話せるはずなのに一部の人達しか話していないという結果だということは、周囲に外国人がいないとか、言葉とかの問題ではなく、それ以外の問題があるのではないかと思います。

【グラフ1：日本人学生と外国人と話す機会】



【グラフ2：留学生の日本人学生と話す機会】



課題を解決するために、何を目的にどんな調査を行ったのか明確にしましょう。

調査結果は表やグラフを使ってまとめ、どんな結果が得られたのか、わかりやすく伝えられるように工夫しましょう。

調査結果から何が見えてくるか、しっかり分析することも大切です。分析結果を整理できれば、次の「解決方法」が見えてくるはずです。

### 3. 解決方法

過去の優秀レポートの例（一部抜粋）

（第8回、テーマ：外国にルーツをもつ人が、あなたの住んでいる街でよりよく生きるためにできることを提案するレポートを作成しよう。）

#### 【問題点】

日本人が持つ外国人への印象をカエル必要がある 外国にルーツを持つ人が私たちの街でより良く生きるために・・・

日本に長く住む外国人の方たちの悩みが多かったのは、「日本に友達がいない」ということでした。一方で、私たちと同世代の日本人の小中学生が持っている外国人への印象で最も多かったのは、「怖い」という印象でした。日本に長く住む外国人の方が、日本で友達を作るためには、私たち日本人が外国人のことをもっと理解する必要があると考えました。日本に長く住む外国人の方が、より良く生きる＝日本でたくさん友達を作れるようにするために 私たちが出来ることは、私たち自身が外国や外国の人のことを知ること。そして、理解した内容を 多くの人たちに周知することだと考えました。



次の「<sup>ていあん</sup>提案」のもととなる大切な項目です。

<sup>ぶんせき</sup>分析を<sup>こんきよ</sup>根拠に、<sup>ほんしつ</sup>課題の本質がどこにあると予想したか<sup>めいじ</sup>明示しましょう。

そして、その課題を<sup>かいけつ</sup>解決するためにどのようなことをすればよいかを  
しっかり考えましょう。

チームメンバーで解決方法の案を持ち<sup>よ</sup>寄り、どの案が最も<sup>こうかてき</sup>効果的かを  
<sup>ぎろん</sup>議論して一番いい案を選ぶのもひとつの方法です。

また、考えた解決方法が課題の解決に結びつくという<sup>こんきよ</sup>根拠が<sup>しめ</sup>示されてい  
れば、レポートの<sup>せつとくりよく</sup>説得力が<sup>おお</sup>大きく<sup>ま</sup>増します。

## 4. 提案

過去の優秀レポートの例（一部抜粋）

（第8回、テーマ：外国にルーツをもつ人が、あなたの住んでいる街でよりよく生きるためにできることを提案するレポートを作成しよう。）

### 【① コミュニケーションパートナー（中長期的・個人対個人向け）】

アンケートの中で留学生が「日本語で話す練習をする人がいない。日本人学生は忙しそうで話しにくいです」と答えていました。でも、話したい日本人学生もたくさんいることが、アンケートでわかっています。それなら、話したい人たちが出会って、話ができるパートナーになればいいと思います。

- ① 大学が希望する日本人学生と留学生を募集する
  - ② 日本人学生と留学生でペアをつくり、マッチングする
  - ③ ペアで、週に1度、30分から1時間程度は会って、会話する
    - ・一緒に買い物や食事に出かけたりしても OK ・次回の予定を必ず立てること。
- ※ 困ったことがあったら、大学にすぐ相談する



この「<sup>ていあん</sup>提案」はみなさんの<sup>そうぞうせい</sup>創造性を<sup>ぞんぶん</sup>思う存分、<sup>はつき</sup>発揮してください。

ですが、大切なのは<sup>いっかんせい</sup>一貫性と<sup>じつげんせい</sup>実現性。

一度、<sup>せってい</sup>最初に<sup>もど</sup>設定した課題に立ち戻り、<sup>ないよう</sup>提案しようとしている内容が、  
自分たちが<sup>かいけつ</sup>設定した課題の<sup>しょうらいてき</sup>解決に<sup>じつげん</sup>結びつくものか、<sup>かくにん</sup>将来的に本当に<sup>か</sup>実現  
できそうなアイデアかを<sup>かくにん</sup>確認しましょう。

確認ができたら、課題を解決するための具体的な提案内容を書いていきましょう。

<sup>ぐたいせい</sup>具体性を持たせるポイントは、「<sup>だれ</sup>誰（何）に」「<sup>なに</sup>どんなことを」「<sup>どう</sup>どのように」  
行うのか、そしてそれに<sup>こうか</sup>どんな効果があるのかを、自分たちで  
しっかりイメージしながら書くことです。

「このアイデアが実現すれば、社会課題が解決する！」「ぜひ実現してほしい！」と読んだ人が思うような提案をお待ちしています。

## 5. まとめ

過去の優秀レポートの例（一部抜粋）

（第8回、テーマ：外国にルーツをもつ人が、あなたの住んでいる街でよりよく生きるためにできることを提案するレポートを作成しよう。）

今回、この課題に取り組む中で、僕たち自身、大学生になるのが楽しみになった。コロナで外国へ旅行したり、留学したりするのが難しい場合でも、これなら、どんどん交流できると思う。まずは身近にいる外国人や留学生とお互いに楽しくなれるようなコミュニケーションをとっていきたい。



**この活動を通して感じたことを書きましょう。**

**活動の前後で考えがどのように変わったのか振り返ってみましょう。**

## 6. 出典・参考文献

本の場合：著者名・書名・出版社・発行年

例) すらら花子 『平和論』 すらら出版 2002年

新聞記事の場合：著者名・新聞名・記事名・年月日・朝/夕刊・面

例) すらら太郎 「核兵器へ立ち向かえ」 すらら新聞 2015年5月1日朝刊5面

※著者名がない場合は書かなくてよい。

ホームページの場合：サイト名・URL・アクセスした日

例) 「文部科学省ホームページ」 <http://www.mext.go.jp/> 2015年5月1日



**調べたことを書くときは、出典や参考文献も、わかる範囲できちんと書いておくようにしましょう。**